

## 「日本の生活と違うこと」

こんにちは。今回は、日常生活の中で気づいたマラウイと日本で違うところを取り上げて紹介したいと思います。

マラウイの通貨はクワチャという単位です。日本円とクワチャでの換金レートは無く、USドルを通して換金するのが一般的です。そのため、比較することは難しいですが、単純に換算すると100円が200クワチャとなります。

隣国の通貨もクワチャのためMKとマラウイクワチャの頭文字を頭につけ、MK 200などと一般的には記します。しかし、MK 200.00のように記していることもままあります。なぜなら、現在は流通していない通貨の名残なのですが、タンバラという単位がこの下にあったのです。日本では、かつて円の100分の1の通貨であった、銭(せん)に相当するものですが、マラウイでは通貨が変わってからの年月が浅い為にも今でも表記を続けているのかもしれませんが。

次に物価を比べてみたいと思いますが、上記の事からも比較することは難しいのでいくつか例をあげると、卵1個がMK 30、パン1斤はMK 100、米1kgはMK 200で販売されています。日本と違いお店よりも市場での販売が消費者にとって重要な位置を占めています。市場の内外では店同士で販売を争うため、値段の幅がとても広いです。市場の良い点としては「おまけ」として芋を少し足してくれたり、米を少し上乘せしてくれたりといったサービスがある点です。その反面、値段が決まっていないので、外国人は相場を知らないと思ってか10倍も高いお金を要求されることもあるので注意が必要です。一方お店は、おまけや割増をされることがなく、食料品や日用品、特に野菜は品揃えが悪いです。店内を見て思うことは品揃えが日によって違う点です。例えばミネラルウォーターが山のように置いてあるかと思えば、1週間置いてない状態が続くこともしばしばです。

マラウイは品揃えが悪く、物が無いのかと言われればそうではなく、南アフリカや中国系列のお店では大抵のものが手に入れますが、基本的に高く、それぞれ国内に数店しかないのです。南アフリカ系列のあるお店では大型テレビや冷蔵庫、パソコンにプリンター、カーペットやキャンプ用品などが置いてあります。カメラを例に挙げるとMK 8万からMK 10万ですが、統計によるとマラウイ人の一般的な平均年収がMK 6万との事なので手が出せない代物なのです。もちろん24時間開いている、コンビニエンスストアのようなものは存在しません。その代わり、いわゆる商店街が都市部では発達しています。

生活水準の低さ、いわゆる低所得が問題でマラウイでは貧困(1日1ドル以下で生活する国民は4割、2ドル以下で生活する人は7割に及ぶとのこと)が存在するわけですが、マラウイ人はやせ細ったりしておらず、むしろ良い体つきをしていることが多く、男性はスリムですが筋肉質。年頃の女性はスレンダーですが、お年を召してくるとふくよかな人が目立つと言った具合です。ここマラウイでは、暖かい土地柄に加え農業従事者の割合がとても高いことが相まって、様々な作物がお手ごろな価格で手に入りやすいという所に秘密があるのではないかと思います。熱帯作物ならではのマンゴーやバナナそしてオレンジ、リンゴは旬になれば豊富に流通するようになります。日本では高級なマンゴーが、マラウイでは時季になるとタダ同然で手に入り、マラウイ人は皆マン

ゴーを食べながら歩いています。芋などは年中安い値段でたくさん手に入れることができるので食べ物不足はあまり無いように感じます。

しかし、水道や電気といったライフラインは完全には機能しておらず、断水・停電は週に1度位は場所により起こります。もちろん、井戸や汲み取りポンプ、川を利用している人もたくさんいます。ちなみに日本ではライフラインの1つに数えられるガスですが、マラウイでは発達しておらず、僕は今までに1度も使っている人を見た事も聞いた事ありません。また、ここマラウイでは電気が国民の7%程の人達しか使えておらず、ただでさえ高い電化製品はまだまだ高嶺の花のように感じます。

マラウイ人は物への欲求と言うものがとても低く、それによって得る利益を求めようとする意欲をあまり感じません。その国民性があるがために発展が遅くなっているのかもしれませんが、がむしゃらに働いてお金を稼ぐ日本とは正反対で、のんびり働いてその月生活できる分のお金を稼ぐといった感じなので驚かされます。

今回は日本の生活との違いに焦点を当ててお伝えさせて頂きました。今後もマラウイの生活などをお伝えしていきたいと思っています。



路上販売



場外市場1



場外市場2